

平成29年度 第1回山高MIRAI（未来）プロジェクト 議事要旨

平成29年6月 岐阜県立山県高等学校

日 時	平成29年6月12日（月） 15:00～16:30
場 所	山県高等学校 ゼミナール室
出席者 （敬称略、 順不同）	<p>恩田 佳幸 岐阜県議会議員 宇野 邦朗 山県市副市長 武藤 孝成 山県市議会議員 伊藤 正夫 山県市教育長 大野 良輔 山県市教育委員 水谷 直義 ミズタニバルブ工業(株)代表取締役 藤井 里樹 岐阜アグリフーズ(株)代表取締役社長 長屋 和弘 山県市商工会事務局長（代理） 谷村 政彦 山県市企画財政課主幹（代理） 長野 健一 山県市まちづくり企業支援課長 山口 正尊 山県市教育委員会学校教育課課長補佐（代理） 大野 憲 山県市PTA連合会会長（梅原小学校PTA副会長） 前田恵津子 山県高等学校評議員 吉田 安孝 山県高等学校同窓会長 神原 綾子 山県高等学校PTA会長 布施 明彦 岐阜県教育委員会教育総務課長</p> <p>翠 雅 司 山県高等学校長 浅野 和道 山県高等学校教頭 愛敬 隆施 山県高等学校キャリア教育担当 猿見田隆宏 山県高等学校商業科主任</p>
議事概要	<p>1 学校の現状と平成28年度の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時バスの増便のお礼 → 今朝の利用生徒数は24名、昨年度から3倍増。 ・1年生の通学の現状は、山県市から31%、岐阜市から42%、関・美濃市から24%、その他から3%となっている。 ・卒業後の進路は2年程前から、進学：就職が1：2程度の割合である。 ・就職者の地域別内訳は、関市へ27名、岐阜市へ21名、山県市へ8名である。 ・求人は岐阜市からが最も多く、全体の34%を占め、次いで関市20%、以降、各務原市、岐南町、美濃市、山県市の順となっている。 <p>2 今後の活性化の実施計画について</p> <p>（1）事業を通じて目指す具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実に向けて、地元企業との連携によるインターンシップ、デュアルシステム、社会人講話の充実などを図っている ・多様な学びの創出に向けて、希望に応じたコース別の学習内容を選択し、多様な学びを目指す。 ・地域に開かれた学校を目指して、小中学校や地域、自治体と連携した部活動交流やボランティア交流、世代間交流、公開授業などを通して、地域を元気にしていきたい。 <p>（2）事業計画と予算の扱いについて</p>

- ・HPのリニューアルについては、トップページを含め刷新し、より興味を持てるように工夫している。HP刷新については外注検討したが、技術のある教員の赴任により自力で作成中である。現在、部活動、社会人講話、教育実習がトップに掲載されており、週に3回程度更新している。ただし、個人の力に頼りきっている現状は、今後に不安が残る。今後は、購入予定である介護ベッドの実習や3Dプリンターの実習、iPadによるICTの活用実践について、生徒のコメントなどを付けて、HPで随時発信していくことを考えている。さらには、中学校の進学説明に出身の山高生が参加し、高校生立場から魅力を伝えることに取り組んでいる。

(3) 関係機関にお願いしたい役割について

- ・小中学校との関係では、バレーボール部やバスケットボール部が、中学校と合同練習を実施し始めている。
- ・新しい学びに対する支援をお願いしたい。
- ・学校から出て、外へ学びに行くことも柔軟に考えたい。
- ・職員の中から、スクールバスの運用はできないかという意見が出ている。

意見交換

- ・多様な学びの創出に向けて、ものづくりや介護などのコースを取り入れていくことを検討している。1年生で基礎的な科目を履修し、2年生からコース選択していく方向で考えている。
- ・将来を決めて高校を選んでいる中学生はごく少数に思われる。インターンシップやデュアルシステムなどを通して、いろいろな経験ができると思う。
- ・デュアルシステムについては、企業の協力を得て、次年度から現在の1年生が企業実習を実施する。希望者数は多いが、保育の希望が多いので、マッチングを丁寧に進めていきたい。
- ・中学生が高校を選択する基準は何か。自分のやりたいことができるかどうか、分かることが必要だと思うが、普通科とビジネスコースというだけでは伝わらない。山県高校で何ができるか、何が学べるかという魅力を、ここにいる委員からも具体的に伝えていくべきである。
- ・現在、ものづくりにかかわる工業系の専門教員は本校にいないため、一般の外部講師を商工会中心にお願いする方向で、商工会からも承諾を得ている。
- ・少子化が進む中、各校で活性化の議論が行われているが、山県高校はG2の中でいち早く協議会がスタートした。山県高校の強みは地域との距離が近いことである。今後の検討していく学科改編に向けて議論してほしい。単位制は一つの有効な制度であると思われる。